



Letter

2008.1.6 VOL.34

(特活) CODE海外災害援助市民センター発行
〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL: 078-578-7744 FAX: 078-574-0702
e-mail: info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>
郵便振替: 00930-0-330579

今号の内容

- ・ 2008年 年頭所感
- ・ 高校生インターンの突撃インタビュー
- ・ 2008年1月のイベント紹介

2008年 年頭所感

地球の60数億の人間一人ひとりに、人間の営みとしての「新年」は巡ってきます。皆さまは新年をいかがお迎えでしたでしょうか。

自然は、地球誕生以来40億年の間、絶えることなく、そのオメガ点(終局点)に向かって、時を刻んでいます。新年は、人間が創り上げた自然の時の流れの区切りとして、人間にとってのみ有意です。しかし、その新年さえも知らず、被災地では、衣も、食も、住も、乏しく、新年を迎えた人の何と多いことでしょうか。

昨年にとどまらず、ここ数年は世界で大きな自然災害が連続的に起きています。私たちは、そのあまりの多さに打ちひしがれそうになります。私たちの元気の源は、一人ひとりのつながりと支えです。

思えば私たちの活動の原点となったのは阪神淡路大震災でした。近代都市が破壊され、生活は虚飾を捨てたものに帰りました。そこに見たものは、人の温かさでした。人は、貧富や身分に関わりなく、誰彼と無く挨拶を交わし、助け合いました。いのちの尊さを肌で感じていました。これは活動の原点ではありますが、人間の原点そのものです。

いま、人はつながりを見失っています。人は、功利や虚飾によって、ばらばらにされています。人をふたたびつなぐには、無私、無欲に、寄り添う存在しかない。私たちはそうした存在にはなり難い。しかし、近づくことはできます。私たちの生は、常に成ろうとするところにあります。そして、少なくとも、寄り添う存在に寄り添うことはできます。

いのちに向きあうことは、真摯に自分に向きあうこと。自らを省みて他を許すことです。そこに温かい交流が生まれます。人はひとりひとりが世界です。ひとりひとりが異なるように、地球には60数億の異なる世界があり、異なることを認め合うところに交流が生まれ、つながりができます。

私たちはいろいろな人たちとつながっている。私たち自身が支えられている。そのことに感謝し、新しい年を始めたい。

ところで、私たちの活動は、災害発生直後72時間の緊急期における緊急援助とは異なり、緊急期を過ぎた、私たちの阪神淡路大震災の復旧・復興の10年の経験から言えば、初期3年、中期4年、終期3年のうち、初期3年に力を注ぐものとして、始めました。震災発生と同時に現地入りをし、募金を行う傍ら、中長期的な現地のニーズを確認し、現地パートナーを捜し、行動を開始し、活動は3年をめどにしたのです。しかし、現実には、活動は3年では終わらないし、終わられませんでした。

私たちの活動は数年前から災害発生前の防災活動の重要性を訴えることにも力を注いできました。特定非営利活動法人としての5年が示すように、いわゆる開発援助の分野にも足を踏み入れています。被災地の人々が立ち上がることができるように、手助けすることが第一義的ですが、そのプロセスは、開発援助の手法・プロセスと重なり合い、その意味で開発援助の分野に踏み込むことになるのです。私たちの望みは、手助けした人たちが、今度は、他の人たちに手を差し伸べてくれるようなつながりを創ることです。その一部はすでにどう基金を通じて生まれてきています。一人ひとりに向き合うことは、つながること。人は、人のために、人とともに、生きる。そんなことを年頭に当たり考えています。

CODE海外災害援助市民センター
代表理事 芹田 健太郎

高校生インターンの突撃インタビュー

NPOシチズンシップ共育企画の高校生インターンシップ事業で、黒田如美さん（今津高校3年生）が11～12月の10日程、CODEに来られました。将来マスコミ志望という彼女が、4人のCODE理事にインタビューしましたので、2回に分けてご紹介します。

秦 正雄 理事（生活協同組合コープこうべ）

コープこうべには「ともしびボランティア振興財団」がありますがどのような経緯で設立されたのですか。

コープこうべは1921年に創設され、3年後に女性がもっと社会へ出て経済など様々なことを学び、助け合いや教え合うことを目的としたボランティアグループ「家庭会」が結成された。そして1995年の阪神淡路大震災でのボランティア活動の広がりを機に、現在のコープともしびボランティア振興財団に発展した。

現在の活動内容、今後の活動予定を教えてください。

現在は兵庫県下のボランティア活動を定着させようという目的で多くのボランティアグループを資金面で支援している。同時に平行して地域の中でボランティア活動を引っ張っていく人材の育成を考えていて、神戸大学発達科学部と連帯してボランティアリーダー育成費の助成も行っている。その他には「ボランティアをしたいけど何をしたらいいのかわからない。」という方のために講習会を開いたり、「セルフヘルプ」として障害者の方など、当事者が自分自身で問題を解決していくための助成も行っている。こういった新しい分野で、資金・情報・コーディネート・学習会を通じての人材育成を進めている。

ともしびボランティア振興財団の目的には「住みよい地域社会を目指す」とありますが、秦理事にとって住みよい地域社会とはどのようなものですか。

コープは「愛と協同」を理念としている。つまり、「思いやりと助け合い」である。しかし現代の社会はこの思いやりと助け合いが希薄ではないでしょうか。例えば電車の中に優先座席が設けられているが、その席に健常者が座ることは当たり前のようになっている。私は本来ならこんな特別な席など設けなくても、障害のある方や、その他不自由のある方に自発的に席を譲る、それが思いやりだと思っている。日本の社会では皆が平等だと言っているけれど、実際問題、心の中には何かしら格差があったりする。私はそんな今だからこそ「愛と協同」の社会が大切だと思う。

メディアでは今後また大きな震災が来ると報じられています。が私たちができる防災を教えてください。

各家庭で非常食の保存場所の確認とか、はぐれた時の集合場所を決めて、もしも震災が起こったときのための話しをしておくことが大切である。地域の防災マップも普及しているから確認しておくといい。コープとしても毎年9月1日の防災の日には全職員で防災訓練を行っている。また「こうべからのメッセージ」という、阪神・淡路大震災当時の組合員さんの経験を元に緊急時の知恵を集めた本を発行している。

阪神大震災時はまちが対応しきれず被害が拡大してしまったという問題もありましたが、まちの防災機能はどんなものが必要だと考えますか。

震災はいつ何時起こるかかわからないので、やはり重要なのは通信網である。しかし現在の社会は、緊急時には対応しきれない携帯電話ばかりが普及して、反対にまちの公衆電話はどんどん減っている。緊急時の通信網として公衆電話は絶対に欠かせないので要所には必ず設置するべきだ。また、震災当時は避難場所や遺体安置所が行政の施設だけでは足りなくなり、コープも体育館をお貸ししたりとできるだけの協力をした。しかしそれでも収容しきれない遺体がたくさんあった。そんな時、私企業も協力してくれたら、と思った。確かに大変なことではあるが、企業というのは地域の方々に支えられて成り立っていると思うので、ぜひ私企業も手を貸していただきたい。

私は震災時5才で震災の記憶はありますが、中には「あまり覚えていない」という友人もいます。そのような震災の経験のない若者に伝えたいことはありますか。

当たり前のことだけれど、家の手伝いをしてほしい。ご飯の作り方や家のどこに何があるのかを知らないとき緊急時には何もできない。勉強ももちろん大事だが、生活の知恵を身につけることは緊急時には必ず役立つ。そして機会があるなら、少しでもいいので自分のためにもボランティアに関わってほしい。

最後にCODEに一言お願いします。

日本では外国人受け入れ問題など様々な問題があるが、どの分野においてもやはり、外国との関わりなしでは成り立たない。また少子化が進んでいるので、今後は外国との交流がもっと重要になっていく。経済だけの繋がりではなくて、人との繋がりが一番大切である。ですからCODEには人間同士の支え合いを強めてほしい。CODEはまだまだ一般には知られていないから、学習会などを通じて、一般の市民への存在を強めてほしい。そして少しでも多くの人に世界の被災地へ出向いてもらって、文化の交流をしてほしい。



CODEの理事となったきっかけを教えてください。

元々ボランティアには関心があったし、個人的には2週間に一回、計520回ほどの献血をしていた。阪神大震災後、毎日新聞の座談会に出席し、現在のCODE代表である芹田先生と、CODEの前身である災害救援委員会の草地先生もその中にいらっしまった。それがきっかけで何か緊急事態が起こればすぐに世界中へ駆けつける先生方の行動力に感動し、実践的な活動にますます関心を持ち始めた。それを機にCODEに参加することとなった。

今も何かボランティアなどはされていますか。

している。舞鶴の海にタンカーが倒れて油が流出したことがあり、妻と油の除去作業に参加をした。豊岡水害の土方作業もすごく大変だったが、体験をすることは大切だと思う。癒しのボランティアとしては、中越地震の際も仮設住宅に伺ってお菓子を配ってお話を聞いたりもした。村井理事が関わっている「足湯」も最高の癒しだと思う。もっと全国に広がってほしい。また私は、阪神大震災で全国のたくさんの人が神戸のまちを助けてくださったので、その恩返しをしたいという気持ちから、色々なボランティアをしている。ボランティアは若い人が多いのだが、そういう所に参加するだけで自分も元気をもらえる。

阪神大震災の時の体験談をお聞かせ下さい。

その日は神戸のマンションに滞在していた。朝方、眼鏡を外して手帳の整理をしていて、いきなり「ドン!!」と突き上げるような揺れと音がし、次の横揺れで眼鏡が吹っ飛んでいった。長い揺れが続く中、奈落の底へ引っ張り込まれるような思いをした。揺れが終わり、一緒にマンションにいた家族が無事だったことを確認した時は本当に安心した。それから娘に電話がかかり、「ジョギングに行っていた友達が『いきなり道が割れて、帰ると家が潰れていた』と言っている。」と聞いて、関東大震災並の大惨事かもしれないと予感した。状況を確認するために、唯一テレビを見ることができた病院で、横倒しになり、また、道の途絶えた高速道路と、火が燃え盛る長田の町の映像を目にし、胸が痛くなった。自分もできることをしていこうと思い、避難所の体育館へお菓子を配ったり、兵庫県洋菓子協会会員に義援金を給付したりもした。もちろん交通機関はストップしていたので、被災地をたくさん歩き回った。踊りが趣味で、それまでは「踊る会長」と呼ばれていたが、震災後の活動で「歩く会長」と呼ばれるようになった。行動することはとても好きなので。

阪神大震災で私たちが失ったものはたくさんありますが、反対に得たものは何だと思えますか。

やはり普通に生活しては得難い人と人との絆だと思う。またボランティアの心が多くの人に芽生えた。私自身も被災者同士でお互いの体験を共有したり、励まし合ったりする中でたくさんの人との関わり合いができた。そして誰もが「仲間がいる。自分は一人ではない」ということを感じる事ができたのではないかな。

神戸を活性化させようという趣旨で「二刀流のんべの会」を開かれているそうですがどのような会なのですか。

「のんべの会」は、地場産業の灘の日本酒と洋菓子とで、被災地以外の方を被災地にお迎えしようという思いから平成9年に始まった。お陰様で全国各地からたくさんの方が来て下さった。私は元々東京生まれだが、神戸に移り住んで50年程経つので、神戸を思う気持ちはすごく強い。震災があったからこそ余計に、「もっと輝いて欲しい」という思いが強くなった。

次の震災に備えて私たちがすべきことは何だと思えますか。

地震は自然の現象なので、どうしようもなく起こることである。けれど「忘れた頃にやって来る」という言葉の通り、私たちは被災して数年間は色々と次の災害の心配をしていたが、今はやはり、当時の心持ちは薄れてしまっている。私も、数年前まできっちり用意していた防災用具を、今は等閑にしまっていたりする。だから被災した時の気持ちを忘れなないことが大切だと思う。

震災を体験していない若者に伝えたいことはありますか。

被災した人の話を聞いて欲しい。そしてHAT神戸にある「人と防災未来センター」にぜひ行ってほしい。そこで語り部の話を聞き、震災の疑似体験、学習をして、学んだことをこの先伝えていくのが若者の役目である。そして、最近は近所付き合いが疎かになりがちなので、繋がりを持って地域の関わり合いを深めることも大事だと思う。

最後にCODEに一言お願いします。

これからも緊急事態にある国々を手助けしてほしい。しかし、現地に駆けつけても政府から規制があったり、できることは限られていたりもする。だから長い目で見た「癒し」のボランティアを強めていければと思っている。そして被害を



受け、支援された人はただ受け身になるだけでなく、自立の精神を身につけて欲しい。その人たちが次にどこかで何かが起こったときに、「次は自分が手助けをしよう」という思いになれば助け合いの輪は広がっていく。一番望むことは、やはり世界の平和である。

2008年1月のイベント紹介

もうすぐ14年目の1.17がやって来ます。毎年1月は震災関連の行事が目白押しですが、その中からいくつかご紹介いたします。また、CODEも2月17日に法人取得5周年記念フォーラムを開催しますので、併せてご紹介いたします。

【HAT神戸+防災EXPOオープニング記念】

テーマ：国際協力の新しいカタチ

～アートでむすぶ防災と国際協力～

日時：2008.1.12（土）14:00～16:30

会場：JICA兵庫2F プリーフィングルーム

主催：兵庫県国際交流協会、JICA兵庫

内容：防災寄席 笑福亭鶴笑

パネルディスカッション

笑福亭鶴笑（落語家）

佐藤浩司（民博 文化資源研究センター准教授）

山本博之（京大地域研究統合情報センター准教授）

藤浩志（美術家）

永田宏和（NPO法人プラス・アーツ理事長）

申込・連絡先：兵庫県国際交流協会協力課

TEL：078-230-3263

* "HAT神戸+防災EXPO2008" は、1/9～1/20にHAT神戸の各機関で開催されています。

【災害メモリアルKOBÉ2008】

テーマ：未来へ語ろう！わたしたちの体験

ぼくたちわたしたちが見た震災

日時：2008.1.13（日）10:00～17:00

会場：人と防災未来センター

主催：災害メモリアルKOBÉ実行委員会

内容：作文発表「先輩の体験に学ぶ」

神戸市立西郷小学校、淡路市立岩屋中学校

スペシャルセッション

「能登半島・中越沖地震を体験して」

輪島市立門前中学校、新潟県立柏崎総合高校

パネルディスカッション

「震災の体験を伝える

～ぼくたちわたしたちのチャレンジ」

コーディネータ：船木伸江（神戸学院大学）

パネリスト：山本真臣（神戸学院大学3年生）

淡路市立岩屋中学校1名

スペシャルセッションより2名

申込・連絡先：災害メモリアルKOBÉ実行委員会事務局

TEL：078-262-5067 <http://www.dri.ne.jp/>

【日本災害復興学会発足記念シンポジウム】

テーマ：新潟、輪島、兵庫から復興戦略を語る

日時：2008.1.14（祝）13:00～16:00

会場：関西学院大学会館レセプションホール

主催：関西学院大学災害復興制度研究所

協力：日本災害復興学会

後援：朝日新聞社

内容：基調講演

「災害復興におけるミスト・オポチュニティーズ」

高坂健次（関西学院大学社会学部教授）

シンポジウム「格差時代の復興戦略を問う」

コーディネータ：

室崎益輝（消防研究センター所長）

パネリスト：泉田裕彦（新潟県知事）

井戸敏三（兵庫県知事）

大桃美代子（タレント）

梶文秋（輪島市長）

申込・連絡先：関西学院大学災害復興制度研究所

FAX：0798-54-6997 <http://www.fukkou.net/>

【1.17メモリアルコンサート】

テーマ：詩の朗読と音楽の夕べ

日時：2008.1.17（水）開場18:30 開演19:00

会場：神戸新聞松方ホール

主催：ぼたんの会実行委員会

復興支援コンサート実行委員会

協力：神戸新聞文化財団

料金：前売り¥2,500、当日¥3,000

内容：詩の朗読 竹下景子

ピアノ・作曲 林晶彦

マリンバ 名倉誠人

申込み：神戸新聞松方ホール tel：078-362-7191

しみん基金こうべ tel：078-230-9774

ギャラリー島田 tel：078-262-8058 など

【国際防災シンポジウム2008】

テーマ：持続可能なコミュニティに向けて

日時：2008.1.18（金）13:00～17:00

会場：よみうり神戸ホール

主催：国際連合地域開発センター（UNCRD）

読売新聞大阪本社

国際防災シンポジウム実行委員会

内容：

第1部：環境と防災

基調講演「エコシステムと防災」

ジェリー・ベラスケス

(UN/ISDRアジア太平洋事務所長)

国連の視点から

「環境と防災の相互作用を考える」

「UNDPスリランカにおける災害復興事例」

神戸から広がる防災教育の輪 「幸せ運ぼう」

第2部：男女で支えあうコミュニティ防災

基調講演「ジェンダー防災をめざして」

モーリン・フォールドハム

(イギリス・ノーザンブリア大学准教授)

コミュニティ防災の現場から

ネパール事例発表

バン格拉デシュ事例発表

UNCRDの今後の取り組み

パネルディスカッション

「男女で支えあうコミュニティ防災」

コーディネータ：芹田健太郎（CODE代表理事）

パネリスト：大島照美子（新潟県女性財団理事長）

末村祐子（大阪経済大学客員教授）

モーリン・フォールドハム

斉藤容子（UNCRD兵庫事務所研究員）

申込・連絡先：UNCRD兵庫事務所

TEL：078-262-5560 <http://hyogo.uncrd.or.jp>

【CODE法人取得5周年記念フォーラム】

テーマ：

いのちと向き合う 暮らし再建の「いま」を見据えて

日時：2008.2.17（日）10:00～18:00

会場：兵庫県私学会館206号室

主催：CODE海外災害援助市民センター

内容：オープニング「CODE5年の歩み」

セッション1

「CODEで育った若者たちの『いま』から学ぶ」

パネリスト：鈴木隆太（中越復興市民会議）

（予定） 斉藤容子（UNCRD兵庫事務所）

濱田久紀（スリランカ駐在）

吉橋雅道（被災地NGO協働センタ）

コメンテータ：柳瀬啓子（コープこうべ参与）

コーディネータ：村井雅清（CODE理事）

セッション2「震災から13年の歩みとCODE」

* CODE理事の発言を元に語り合い、学び合う

黒田裕子/秦正雄/吉富志津代/水野雄二/

藤野達也/榛木恵子ほか

コーディネータ：野崎隆一（CODE理事）

セッション3「新しい市民社会とCODEの役割」

芹田健太郎（CODE代表理事/愛知学院大学教授）

室崎益輝

（CODE副代表理事/消防研究センター所長）

コーディネータ：松本誠（CODE理事）

申込・連絡先：CODE海外災害援助市民センター

TEL：078-578-7744 <http://www.code-jp.org/>



活動記録 8/1～12/31

- 8月24日 防災士研修・神戸（村井）
- 9月17日 CODE理事会
- 10月5日 日本国際学生協会（ISA）で講演（村井）
- 10月9日 舞子高校で講義（村井）
- 10月16日 CODE理事会
- 10月28日 高校生NPOインターンシップ説明会（細川）
- 11月1日 21世紀文明研究セミナー（村井）
（11月1日～12月25日 高校生インターンシップ実施）
- 11月13日 佐用町国際交流協会講演（村井）
- 11月14日 龍谷大学で講義（村井）
- 11月17日 ひょうご防災リーダー講座（村井）
- 11月20日 神戸学院大学防災・社会貢献研究会（村井）
- 11月26日～12月3日 関西NGO協議会20周年記念イベント
- 12月7日 防災士研修・大阪（村井）
- 12月10日 ひょうご安全の日推進県民会議総会（細川）
- 12月12日 甲南女子大学で講義（村井）
- 12月17日 CODE理事会
- 12月19日 堺女性大学で講演（村井）

ありがとうございます 8/1～12/31

会員・寄付者ご芳名（以下順不同・敬称略）

一般寄付

個人：福田典男、笠置りか、成毛典子、安部美鈴、船城享、三島宣彦、和田隆太郎、高木清、鶴飼愛子、菊田歌雄、高橋澄枝、森下和子、篠田耕昌、瀧山龍奨、本郷和美、橘治行、西田照代、新居チツ子、鳴海園、慶児純子、斉藤容子、山本京子、島本久嗣、細川裕子

会 員

・正会員

個人：鶴飼卓、明石和成

団体：コープこうべ

・賛助会員

個人：江口節、後藤堅吾、黒瀬晴世、市丸仁一、鶴飼愛子、斉藤容子、藤原ミサ子、町田佳菜子、町田憲治、藪口隆、原岡富美子、石川玲子、中山恵三、西田照代、池見宏子、山根一毅、岩国正次、古川英子、安藤尚一、岡本牧子

NPO：堺市女性団体協議会、アート・サポート・センター神戸

終わりに

毎年数多くのイベントが1月に行われますが、何とか間に合うタイミングでCODEレターをお届けでき、ホッとしています。次号は、高校生インターンの突撃インタビューを中心に3月末くらいに発行できればと思っています。

今年も相変わりませず、よろしくお祈りします。